

教員 C による記述

「やさしい日本語」の使用は、言語権の保証が目的である。言語権とは、言語的少数者の尊厳を守り、安全を保障するための権利である。この観点からすると、問題にあるような批判的意見は不適切であると考ええる。

「やさしい日本語」は普段日本人が使っている日本語よりもはるかに簡素なものであるこのため、「外国人の日本語力を低く見ている」などの批判意見が出るのも無理はない。しかし、実際に日本語力の低い外国人がいることも事実である。外国人に関して情報格差を生み出さないためには、後者を標準にして考えなければいけない。そして、特に外国人に対して広く情報伝達の迅速化をはかることは、外国人に正しい日本語を覚えさせることよりも優先される事柄である。

様々な外国人が来日している昨今、地方自治体における言語権の保証はますます必要になっている。「やさしい日本語」の重要度も、今後さらに高まっていくのではないだろうか。

(391 文字)